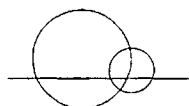


〈諸事項の報告・紹介〉



記念センター友の会小坂井町文化展へ初出展

愛知大学東亜同文書院大学記念センター
客員研究員

越知 専

1998年（平成10年）5月9日（昭和62年5月9日は本間先生の命日）に初めて、愛知大学記念センターの資料が展示公開され、賛助会員の募集も始まった。

2007年（平成19年）本間喜一展示室も出来てフレッシュオープンした。筆者は平成10年来の賛助



豊橋市美術博物館で運営の勉強をする
ファン（友の会）のメンバー

会員であり、平成16年から終身会員になった。当初は、賛助会員は百数十名、終身会員三十余名であったが、今は減少気味である。

しかし、2006年（平成18年）文部科学省によるオープンリサーチセンター事業に選定されて、運営の経費は或る程度豊かになった。これを良しとしてはいけない。自らのファン、友の会を立ち上げて隆盛を計らなければならない。今までの賛助会員制や大学や同窓会との関係、会費会則などいろいろと討議した。美術館や資料館に出向いて（平成21年3月1日）勉強会もしたが、リピーターを

増やす企画運営には人手と経費が重要な問題になる。

そこで、人的、経済的にも負担をかけずに協力してもらう体制、ボランティアのような友の会の立ち上げを考えた。

まず、豊橋市美術博物館にお願いしたり、田原市博物館や豊川桜ヶ丘ミュージアム、新城市や東栄町、蒲郡市博物館など16施設と連携することにした。また『東三河のミュージアム』を愛知大学東亜同文書院ブックレットとして出版した。

研究支援課全員が手分けをして、友の会メンバー加入の説得をした。「経費の負担はかけません。人手も多くはかけません。お互い資料の交換やPRをし、東三河が連携して文化の向上につとめましょう」とお願いした。

その中で、小坂井町郷土資料館長から「愛知大学東亜同文書院大学の資料の貸出しが可能かどうか」と尋ねられた。それが、愛知大学東亜同文書院大学展」が目玉企画として、小坂井町（平成22年2月1日から豊川市と合併した）中央公民館で賑やかに開かれ地域の文化会に初めて参加貢献したのである。

このように地域の文化施設との交流が盛んに行なわれることを希望すると共に、地域住民による大学との町づくり（栄校区グループ）や愛知大学東亜同文書院大学記念センターの応援団や（まちはたクラブ）のファンの会などが活発に行動することが、支援実動隊として望ましいと思うがどうか。（P449頁に関連記事あり）